

9. 専門家の助言内容と専門分野等

事後調査及び環境保全措置に係る専門家、指導及び助言の内容は、表 9-1 に示すとおりです。

表 9-1 専門家の指導及び助言内容

対象種	専門家の指導及び助言内容	専門家
カヤネズミ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 除草方法の変更によりカヤネズミの巣が復活してきたのは良かった。 ・ ただし保全地を良好な状態に保つためには、今後とも同様の管理が必要と思われる。 ・ 特に保全地の南側のブロックはこれまであまり除草されておらず、クズが繁茂してから長期間が経過している。このため、クズを駆除するには何年か継続的に除草をしなければならないと思われる。 ・ クズは保全地の内津川岸や JR 沿いにも繁茂しており、保全地で一度駆逐しても再び侵入してくる可能性が高い。 ・ これに対処するためには、除草の質を落とさないように継続することが重要である。 ・ 保全地の管理（除草）には多額の費用が掛かるため、従来の方法にとらわれず、他の自治体などで導入しているヤギによる除草なども試してみてはどうか。 ・ 数年ごとでも構わないので、時々カヤネズミの架巢調査を実施し、カヤネズミの生息状況を確認して方が良い。 	大学准教授 (応用生物学)
ダルマガエル	<ul style="list-style-type: none"> ・ ダルマガエルの減少した理由の一つとして、他種との競合の可能性もあるのではないかと。 ・ 近年は、ダルマガエルは急激に分布を減らしている。 ・ 当該地域のダルマガエルは平成 10 年以降に減少しており、激減した理由の断定はできないが、放棄水田が増えたなど、本種の生息環境が変化したことによる可能性も考えられる。 ・ 保全対象種が存在しないので、保全対策が実施できないのは仕方ない。 	

対象種	専門家の指導及び助言内容	専門家
オグラノフサモ	<ul style="list-style-type: none"> ・オグラノフサモの減少要因は分からない。ただし、ナガエミクリが増加しているため水質の変化（悪化）が要因ではないと考えられる。 ・庄内川流域ではオグラノフサモが増加している。 ・ただし、庄内川流域で増加しているオグラノフサモや対象事業実施区域のオグラノフサモは、フサモとオグラノフサモの雑種である可能性がある。庄内川流域のオグラノフサモの増加状況からも、その様に考えられる。 ・本事業でオグラノフサモの保全ができなくても、庄内川流域の状況をみれば大きな問題とはならないと考えられる。 	大学名誉教授 (植物分類学)
ナガエミクリ	<ul style="list-style-type: none"> ・水の確保が困難なことから、対象事業実施区域内に水路を造成することが不可能なことは理解できた。 ・この様な状況から、水路の整備計画の変更はやむを得ないと考える。 ・地蔵川の生育環境の現状は非常に良い状況である。この状況であれば、新たな保全処置の必要はない。現在の環境の維持を図ることを考えることが重要である。 ・なお、河川改修等によりナガエミクリが撤去されるようなことが無いよう配慮する必要がある。 	